

令和7年12月
水産庁

WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会） 「第22回年次会合」の結果について

- 12月1日から5日にかけ、フィリピンにおいて、中西部太平洋におけるカツオ・マグロ類の資源管理に関する国際会議が開催。
- 本年の会議では太平洋クロマグロの増枠の議論はなかった。

1 WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）

中西部太平洋におけるカツオ・マグロ類の資源管理等を目的とする国際機関。メンバーは、日本、米国、EU、韓国、太平洋島嶼国等26か国・地域。

2 日時・場所

12月1日（月）から12月5日（金）まで、フィリピンで開催。

3 我が国出席者

福田資源管理部審議官（政府代表）ほか、水産庁、外務省、国立研究開発法人水産研究・教育機構及び業界関係者等。

4 結果概要

（1）南太平洋ビンナガ

新たな管理方式（※1）が合意され、同管理方式に基づく総漁獲可能量（TAC）の配分等のルールの策定に向けて議論を進めていくことが確認された。

（※1）長期的な目標となる資源の水準等を定めた上で、資源状態に応じて自動的に計算される漁獲枠の水準等をあらかじめ設定する管理方式。

(2) カツオ

管理方式の実施状況の検証が行われ、資源は管理目標付近にあることが確認された。また、同管理方式に基づく次回の漁獲水準の計算を 2027 年に実施することが合意された。

(3) 太平洋クロマグロ

増枠についての議論は行われず、本年 7 月の北小委員会 (※2) における管理方式の策定等に関する議論の進捗状況が報告された。

※2 太平洋クロマグロ等の主に北緯 20 度以北の太平洋に分布する資源の保存管理措置の設定は、北小委員会の勧告に基づき行われることが WCPFC 設立条約に定められている。

【参考：WCPFC における太平洋クロマグロ資源管理措置の概要】

2024 年の決定内容	備考
WCPFC (西太平洋) 小型魚：1.1 倍を基礎に増枠 (4,725 トン ⇒ 5,125 トン) 大型魚：1.5 倍を基礎に増枠 (7,609 トン ⇒ 11,869 トン)	2026 年に措置を見直し
IATTC (東太平洋) 1.5 倍を基礎に増枠 (3,995 トン ⇒ 6,292.5 トン) (※1 年あたりに換算)	2025-2026 年の 2 年間の措置

(4) 次回会合

2026 年 11 月 30 日から 12 月 4 日開催 (場所未定)。

(以上)